

泰山

鈴木 尉元 (地質情報センター)

Yasumoto SUZUKI

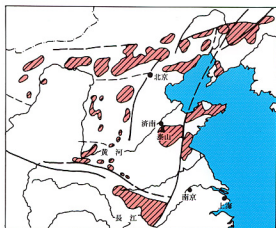
「泰山鳴動して鼠一匹」などとたとえられる山東省にある名山で 標高1545mの高さをもつ。地質

学的には 始生界の泰山系の模式地。



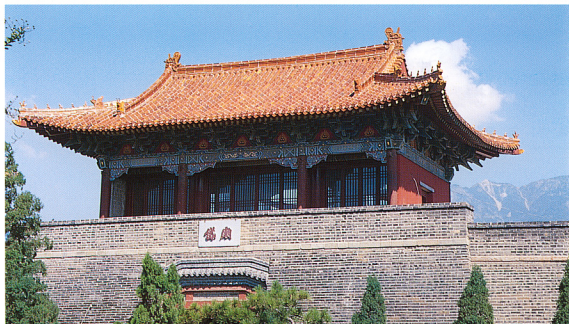
←写真1

泰山系は主として片麻岩からなり角閃岩や白粒岩をはさむ、また花崗岩も分布する。この付近の泰山系は北東-南西の一般走向をもち 転倒した背斜・向斜構造をもつことが知られている。25億年前後の放射年代値(2450, 2500, 2586 Ma)が得られているので 変成の年代も原岩の年代も始生代である (山東省地質局・山東地質学会:1983 泰山地質旅游指南, 38p.; Yang, Z. et al.:1986 The Geology of China, Oxford Clarendon Press, 303p. による)。



第1図←

中国における始生界の分布(Yang, Z. et al.:1986による)。中朝古陸とよばれる地域に主として分布する。



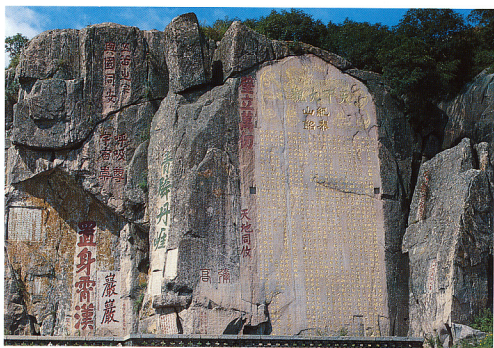
↑写真2 天子のおこなう最高の儀式封禅(天地の祭り)は 秦の始皇帝以来泰山でおこなわれた。以後 漢の武帝 後漢の光武帝 唐の高宗・玄宗 清の康熙帝などがこれにならった。この儀式をおこなう堂廟が山上山下に建てられたが 写真は泰山下の泰安にある宋代の巨大な宮殿式建築天祀殿の一部である。



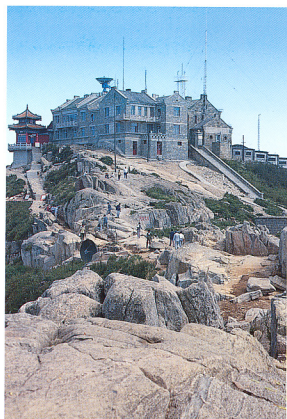
↑写真3 泰山には 谷間を通り このような急な石段をのぼって 頂上に達する道がつけられている。



↑写真4 しかし 近年は舗装道路が完備され 自動車でも途中で上り 8合目くらいまでロープウェーで上り 1時間は歩いて頂上に達することができる。眼下は泰安の町。



↑写真5 泰山の頂上近くの露岩には、ここを訪れた皇帝、文人墨客の残した題字や詩詞が多く残されている。



↑写真6 泰山の頂上の南東方の峰にある気象台。手前は泰山系の片麻岩。



↑写真7 泰山山頂にある堂の入口。



←写真8

泰山系の片麻岩(インジェクション・ナイス)。泰山系は主として片麻岩からなり角閃岩や白矽岩をはさみ層厚は1万1000mに達する。変成度はアルマンディン角閃岩相・十字石・藍晶石相にまで達している。しかし局部的に後の後退変成作用のために緑色片岩相になっている所もある。



←写真9

泰山系の片麻岩の示す小褶曲。



←写真10

泰山系の片麻岩に貫入する花崗岩質岩。